海の道むなかた館
令和５年度館長講座
「筑紫・豊（前）の四つの窓」

令和５年６月10日(土)

海の道むなかた館長　　西谷　正

第３回　Ⅰ.玄界灘・響灘（３）「胸形」国の可能性

Ⅰ　はじめに

邪馬台国と宗像地域

Ⅱ　邪馬台国登場－北東アジアの国際情勢

（１）中国大陸―三国（魏・呉・蜀）時代

（２）朝鮮半島―楽浪・帯方郡と馬韓・弁韓・辰韓の原三国時代

（３）日本列島―弥生時代後期

Ⅲ　日本列島・倭の国々

（１）対馬国から邪馬台国へ

（２）国とは―農業共同体・首長から国・王へ

Ⅳ　「胸形」国の可能性

（１）弥生時代中期前半・田熊石畑遺跡の首長墓

Cf.早良郡域における吉武高木遺跡の首長墓

（２）弥生時代中期後半～後期・「胸形」国の可能性

Cf.怡土郡域における伊都国の国邑と王墓

（３）古墳時代初期の前方後円墳・徳重本村２号墳

Cf.遠賀郡域における島津丸山古墳と岡縣主の祖・熊鰐

Ⅴ　おわりに

今後の課題

不足食亦南北市糴　⑤又
渡一海千餘里至末盧國
有四千餘戸濱山海居草
木茂盛行不見前人好捕
魚鰒水無深淺皆沈没取
之　⑥東南陸行五百里到
伊都國官曰爾支副曰泄
謨觚柄渠觚有千餘戸世
有王皆統屬女王國郡使
往來常所駐　⑦東南至奴
國百里官曰兕馬觚副曰
卑奴母離有二萬餘戸東
行至不彌國百里官曰多
模副曰卑奴母離有千餘
家南至投馬國水行二十
日官曰彌彌副曰彌彌那
利可五萬餘戸　⑧南至邪
馬壹國女王之所都水行
十日陸行一月官有伊支
馬次曰彌馬升次曰彌馬
獲支次曰奴佳鞮可七萬
餘戸自女王國以北其戸
數道里可得略載其餘旁
國遠絶不可得詳

い、副を卑奴母離という。方三百里ばかり。竹木叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地ありて、田を耕せども、なお食するに足らず。また南北に市糴す。

⑤又、一海を渡ること千余里。末盧国に至る。四千余戸あり。山海に濱いて居す。草木茂盛し、行くに前人をみず。好んで魚鰒を捕え、水深浅となく、皆沈没してこれを取る。

⑥東南、陸行すること五百里。伊都国に到る。官を爾支といい、副を泄謨觚柄渠觚という。千余戸あり。世々王ありて、皆女王国に統属す。郡使の往来、常に駐する所なり。

⑦東南、奴国に至るには百里。官を兕馬觚といい、副を卑奴母離という。二万余戸あり。東行して不弥国に至るには百里。官を多模といい、副を卑奴母離という。千余家あり。南、投馬国に至るには、水行二十日。官を弥弥といい、副を弥弥那利という。五万余戸ばかりあり。

⑧南、邪馬壹国に至る。女王の都する所なり。水行十日、陸行一月なり。官に伊支馬あり。次を弥馬升といい、次を弥馬獲支といい、次を奴佳鞮という。七万余戸ばかりあり。女王国より以北は、その戸数道里を略載し得べくも、その余の旁国は、遠絶にして、詳らかにすることを得べからず。

卑狗、副官を卑奴母離という。四方は三百里ばかりである。竹木がびっしり生えた林が多く、三千ばかりの家がある。いくぶん田があるが、耕してもなお食料不足で、やはり各地で市糴をしている。

⑤また海を渡ること千余里。末盧国（現佐賀県唐津市周辺）に至る。四千余戸がある。山の迫った海浜沿いに暮らしている。草木が茂り、前を歩く人が見えないほどである。好んで魚やアワビを捕らえ、水の深い浅いに関係なく皆潜ってこれを取っている。

⑥東南に陸路で五百里。伊都国（現福岡県前原市周辺）に至る。官を爾支、副官を泄謨觚、柄渠觚という。千余戸がある。代々、王がいて、皆、女王国に服属している。（帯方）郡の使者が往来する時は、いつも駐在する所である。

⑦東南の奴国（現福岡市博多区、春日市周辺）に至るには百里。官を兕馬觚、副官を卑奴母離という。二万余戸がある。さらにまた、東に行き不弥国に至るには百里。官を多模、副官を卑奴母離という。千余家がある。また南の投馬国に至るには船で二十日かかる。官を弥弥、副官を弥弥那利という。五万余戸ばかりがある。

邪馬台国は女王が都するところ

⑧南に行くと邪馬壹（台）国に至る。女王が都にしている所である。船なら十日、陸路なら一か月かかる。官に伊支馬がある。次の者を弥馬升といい、その次を弥馬獲支、その次を奴佳鞮という（四等官制である）。七万余戸ばかりがある。女王国から北は、その戸数や里程をほぼ記載できるが、その他の辺境地域の国々は遠く隔たり詳細はわからない。

魏志倭人伝

＝「三国志」巻三十「魏書」「烏丸鮮卑東夷伝」第三十「倭人条」

宋版（宮内庁書陵部蔵）より

水野　祐・早稲田大名誉教授
（現代語訳監修も）

原文

①倭人在帯方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國　②從郡至倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國七千餘里　③始度一海千餘里至對馬國其大官曰卑狗副曰卑奴母離所居絶島方可四百餘里土地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戸無良田食海物自活乘船南北市糴

④又南渡一海千餘里名曰瀚海至一大國官亦曰卑狗副曰卑奴母離方可三百里多竹木叢林有三千許家差有田地耕田猶

読み下し

①倭人は帯方東南の大海の中にあり。山島に依りて国邑をなす。旧百余国。漢の時に朝見する者あり。今使訳通ずる所三十国なり。

②郡より倭に至るには、海岸に循いて水行し、韓国を歴て、乍く南し、乍く東して、其の北岸、狗邪韓国に到る。七千余里なり。

③始めて一海を渡ること千余里。対馬国に至る。其の大官を卑狗といい、副を卑奴母離という。居する所絶島にして、方四百余里ばかり。土地山険にして深林多く、道路は禽鹿の径の如し。千余戸あり。良田無く、海物を食して自活し船に乗って南北に市糴す。

④又、南一海を渡ること千余里。名づけて瀚海という。一大国に至る。官をまた卑狗とい

現代語訳

①倭人は帯方郡（現北朝鮮黄海道～韓国京畿道）の東南の大洋の中にいる。そびえ立った島にクニを作っている。もとは百余か国あった。漢の時代に朝貢した者がある。今、通詞を介し朝貢しているのは三十か国である。

女王国への行程と主要な国々

②郡（帯方郡治所）から倭に至るには朝鮮半島沿いの沿岸航法で韓国を経てしばらく南に行き、しばらく東に行き、倭の北岸の狗邪韓国に着く。七千余里（魏の一里は一説に約百九メートル、また約三百九十二メートル、約四百三十四メートル説もある。一日＝千里の概数とも考えられる）である。

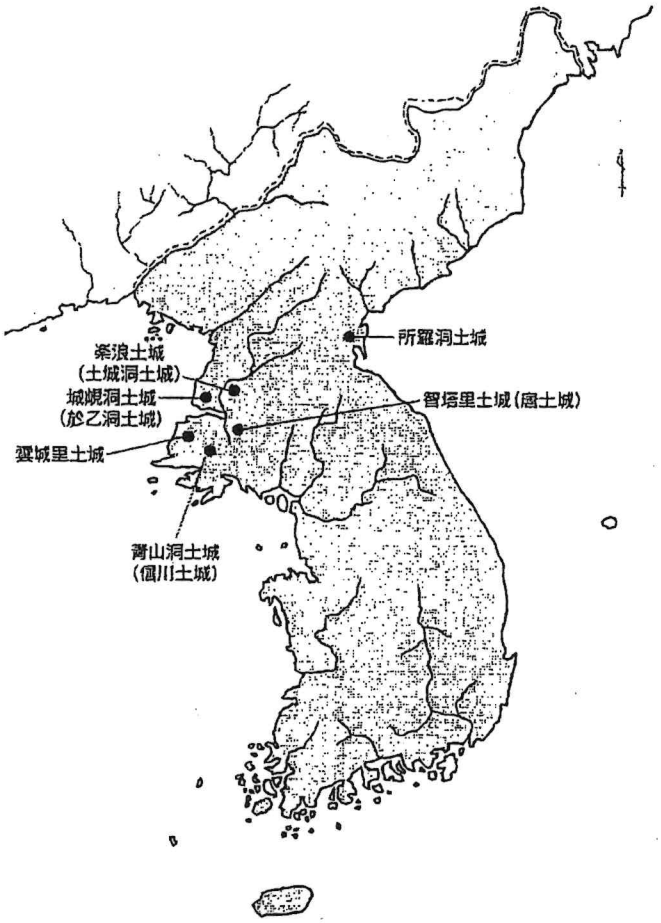
③初めて渡洋航海をして千余里。対馬国（現長崎県対馬）に至る。そこの（王を補佐する）大官を卑狗、副官を卑奴母離という。住んでいる所は絶海の孤島で四方は四百余里ばかりである。土地は山が険しく深い森林が多く、道は鳥や鹿の獣道のように細い。千余戸がある。良い田はなく、海産物を食べて自活、船に乗って北は韓国、南は倭国本土に行き市糴（米の購入）をしている。

④また南に海を渡ること千余里。瀚海（大海の意味）という。一大国（一支国＝現長崎県壱岐）に至る。官をやはり

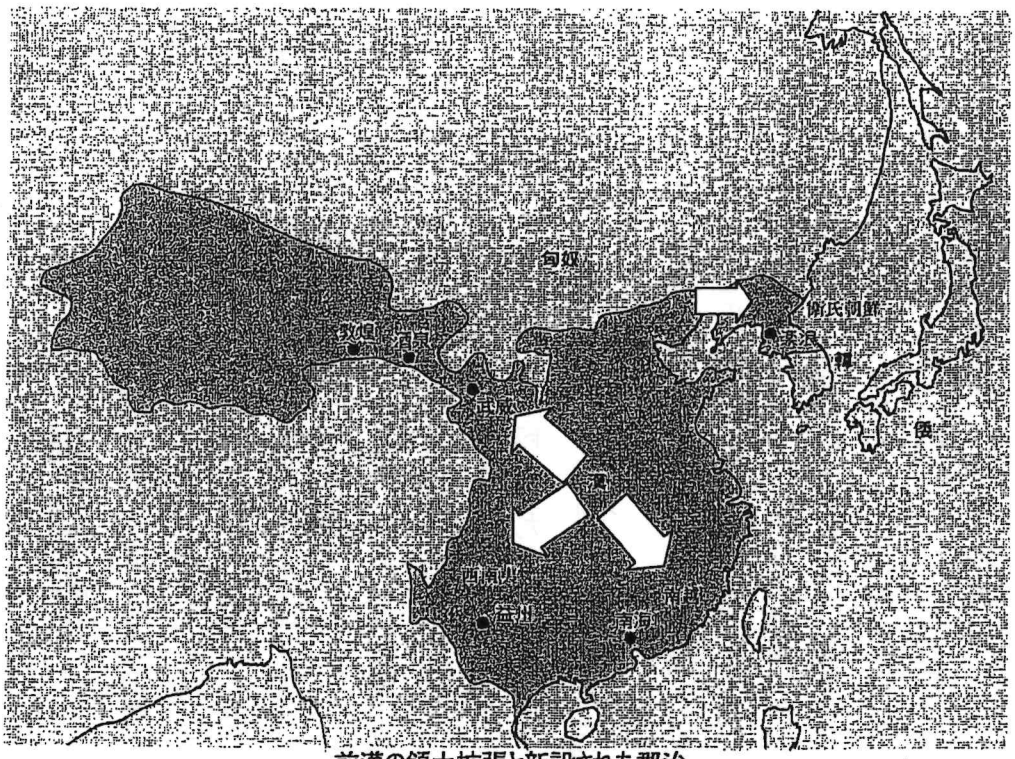
楽浪郡（らくろうぐん）は紀元前108年に朝鮮半島西北部に設置された前漢の郡の一つで、東夷世界における漢の出先機関の役割を果たした。一方、朝鮮半島南部の三韓地域、ならびに日本列島の倭地域から見ると、漢の先進文化を取り入れる窓口として楽浪郡は位置付けられる。

実際、楽浪郡の設置後、倭との交流も始まり、前漢の史書『漢書』地理志に、「楽浪海中に倭人有り、分かれて百余国をなす。歳時をもって来たりて、献見するという」と記され、倭の使節が楽浪郡を訪れたという出来事が、初めて中国の史書に記録されることになる。また、近年の発掘調査の成果によると、弥生時代中期後半（紀元前１世紀後半）以降、楽浪系土器などの漢式遺物も北部九州を中心に出土することが判明している。

このように、楽浪郡と北部九州の交流が記録と出土品により明らかにされつつある。



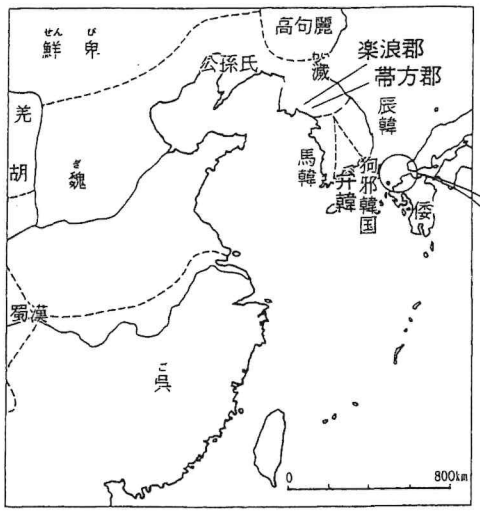
漢四郡関係土城分布図



前漢の領土拡張と新設された郡治

伊都国歴史博物館　2004『海を越えたメッセージ～楽浪交流展』より

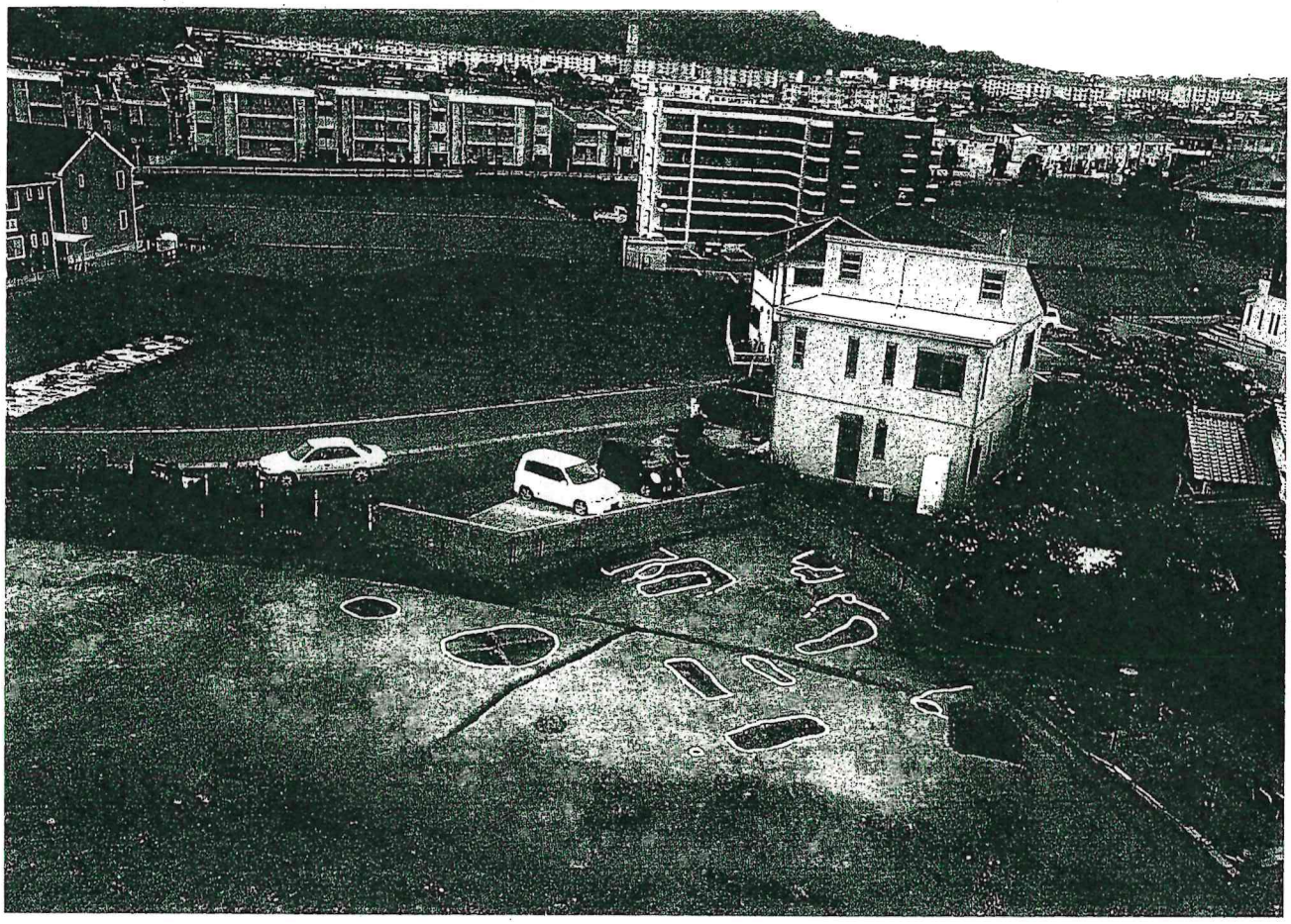
3世紀の東アジア諸国と北部九州の国々



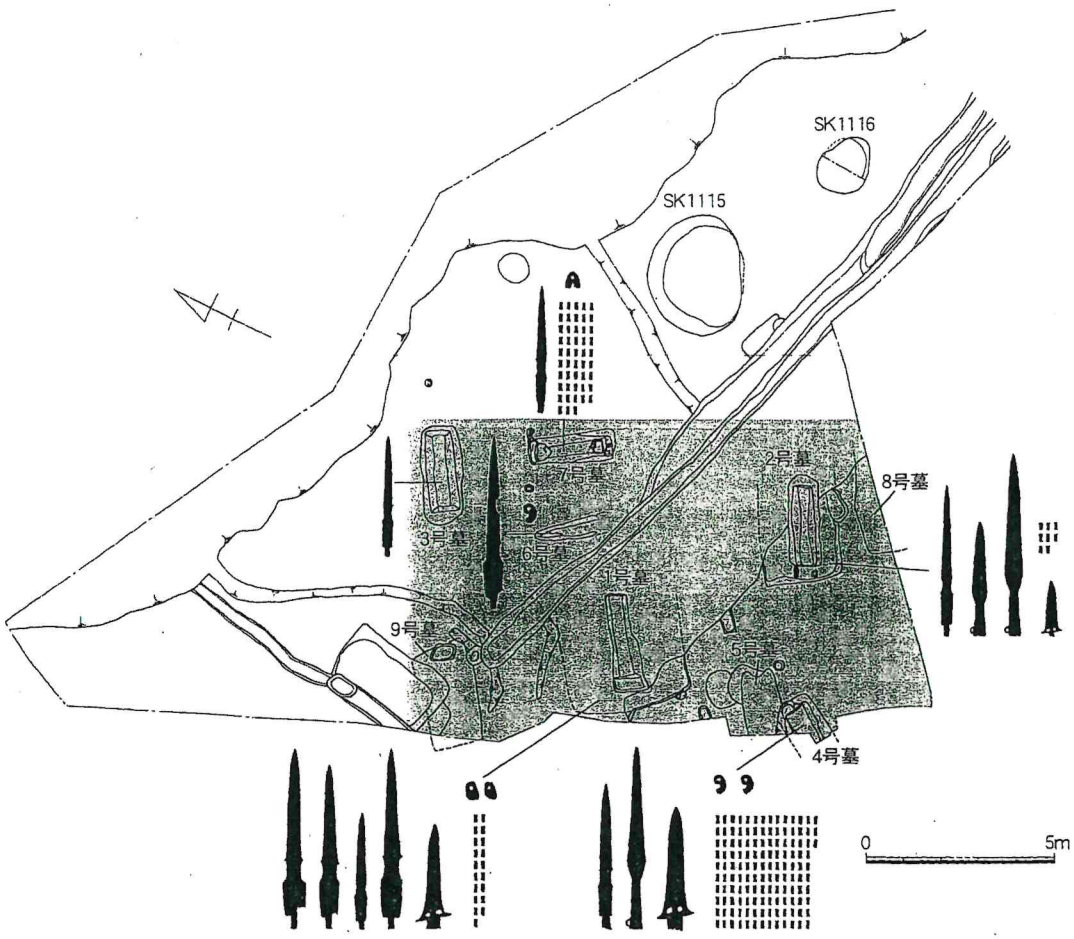
楽浪郡と帯方郡 楽浪郡は前漢の武帝が紀元前108年に朝鮮半島に設置した四郡のひとつ。中国本土から多くの官吏、商人らが移住し、その文化は周辺諸地域の人々に大きな影響を与えた。

帯方郡は三世紀初頭に遼東の公孫氏の台頭によって楽浪郡の南部に設置された郡。前漢の時代には倭人が楽浪郡に朝貢し、魏の時代には邪馬台国の女王卑弥呼が朝貢したとされている。

第19回国民文化祭前原市実行委員会 ほか，2004『シンポジウム 邪馬台国の時代「伊都国」』

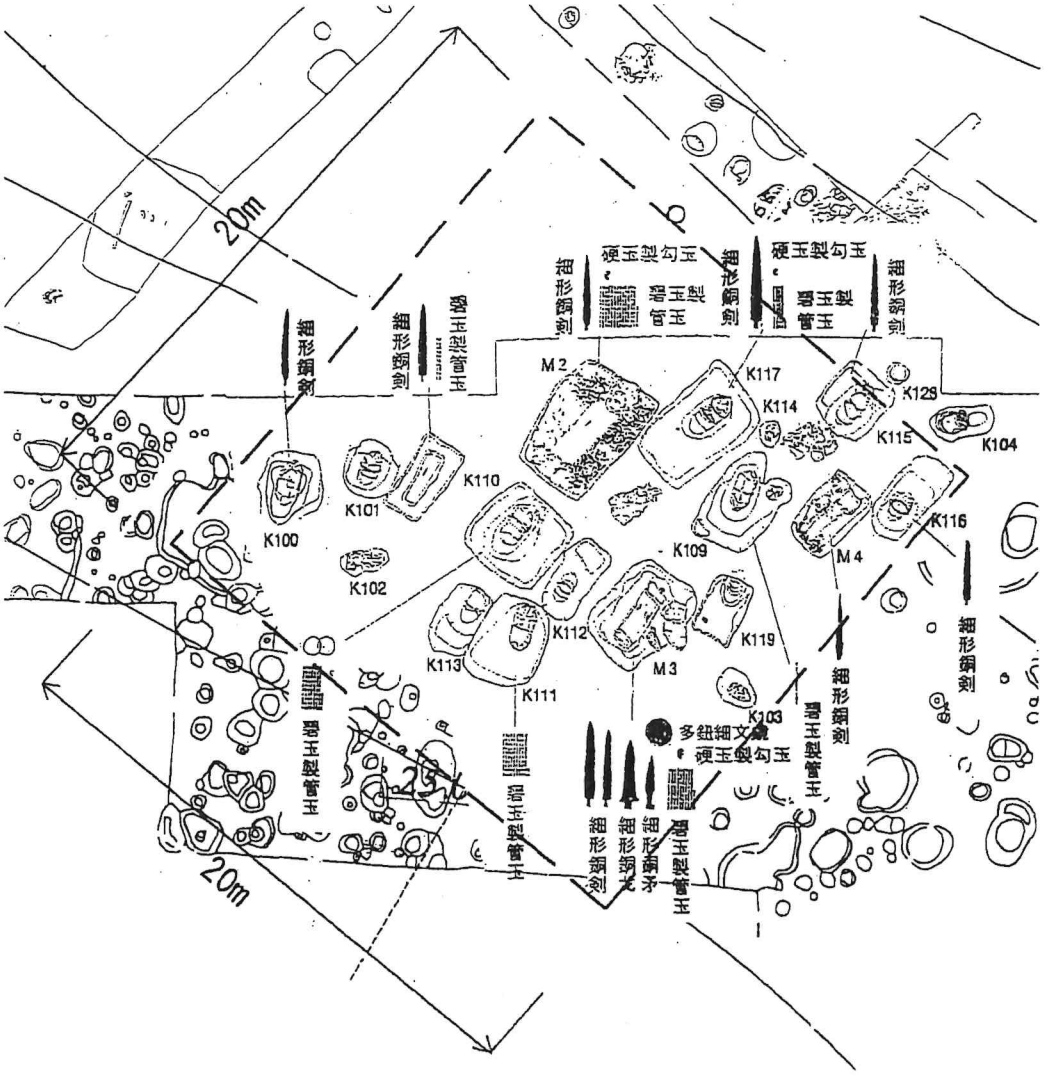


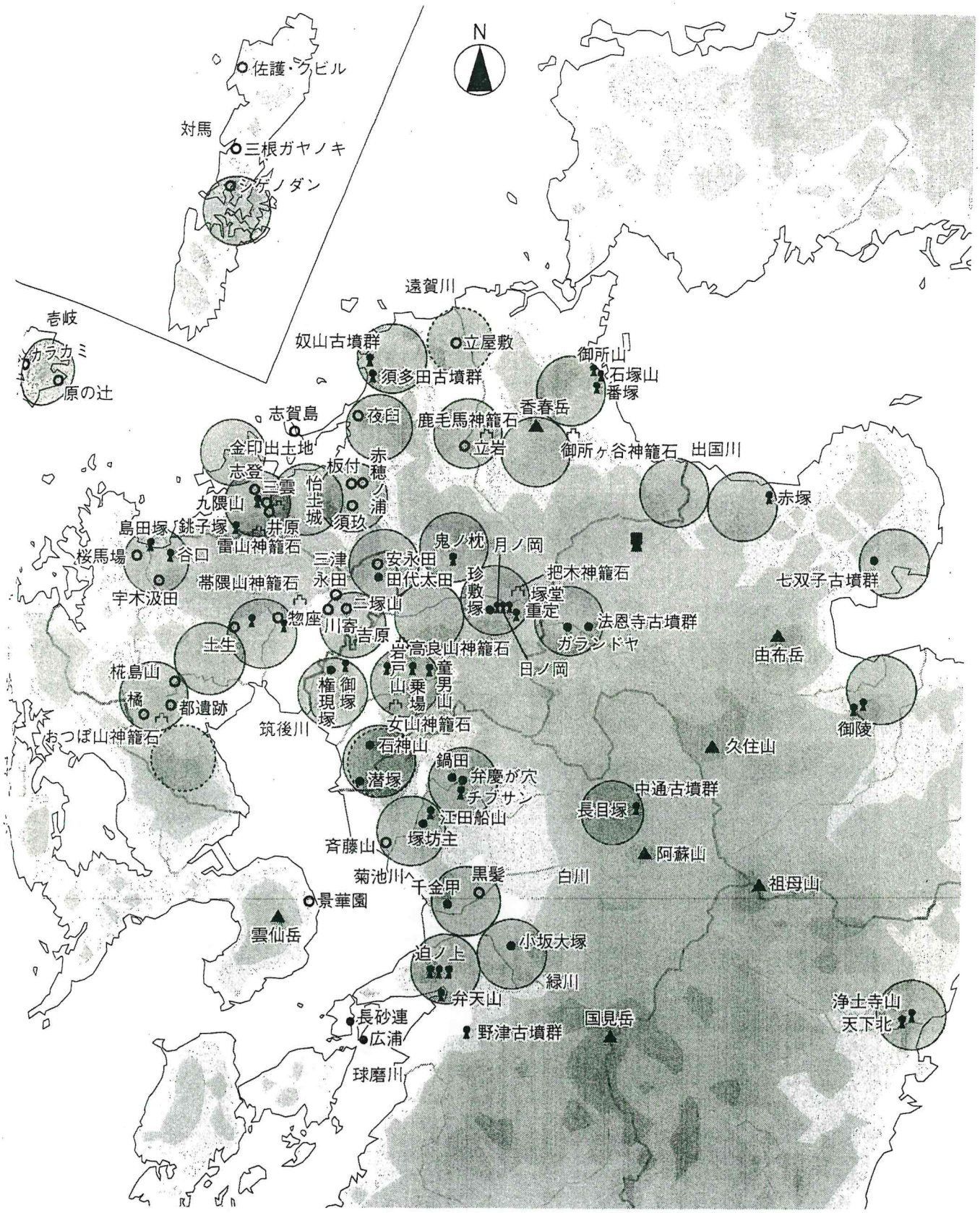
弥生時代中期前半の墓域（北から）



田熊石畑遺跡墓域周辺の遺構配置図（S=1/200）

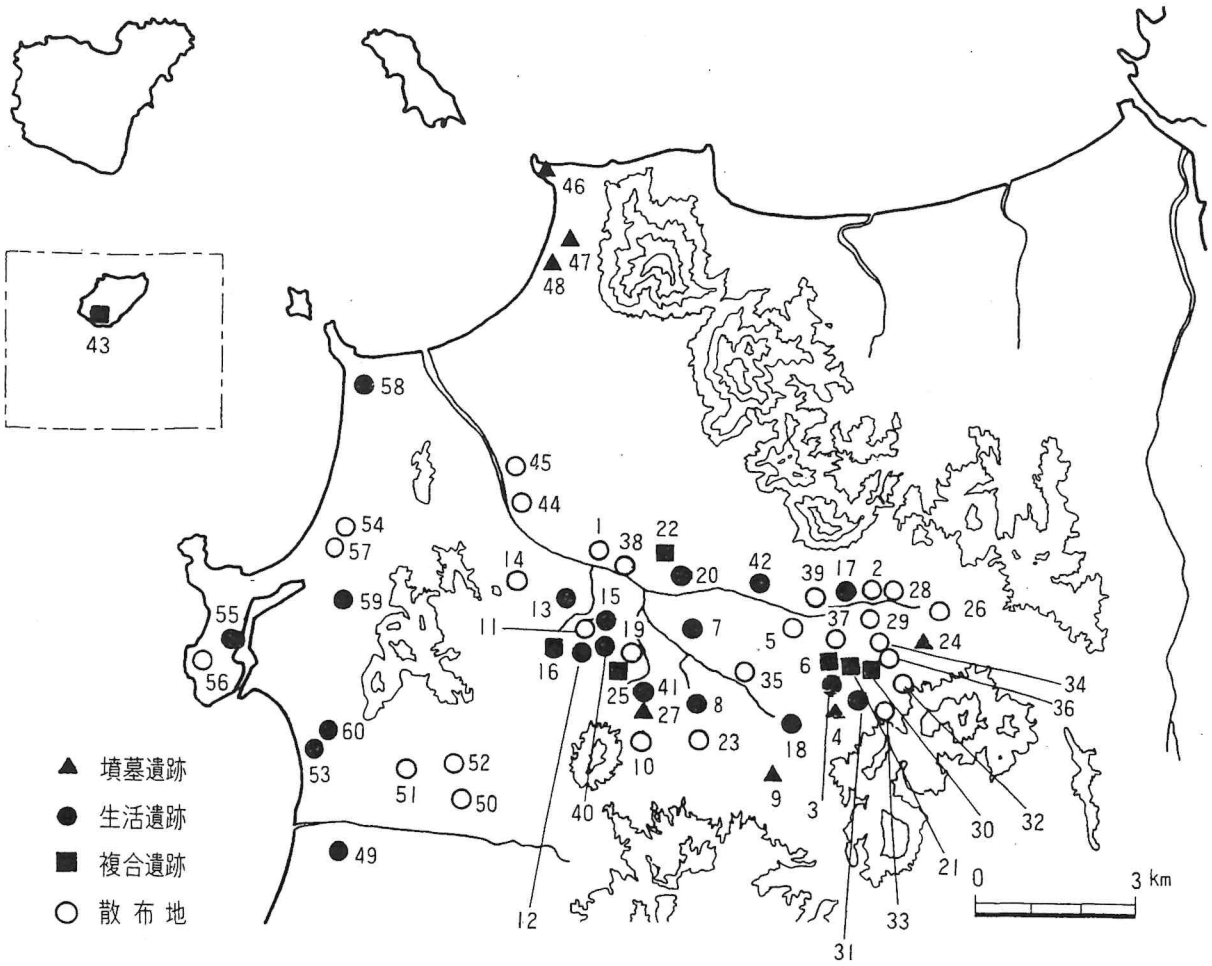
宗像市教育委員会，2009『概報 田熊石畑遺跡』
『宗像市文化財調査報告書』第61集


20m
20m
K100
K101
K102
K103
K104
K109
K110
K111
K112
K113
K114
K115
K116
K117
K119
K125
M2
M3
M4
細形銅剣
細形銅剣
細形銅剣

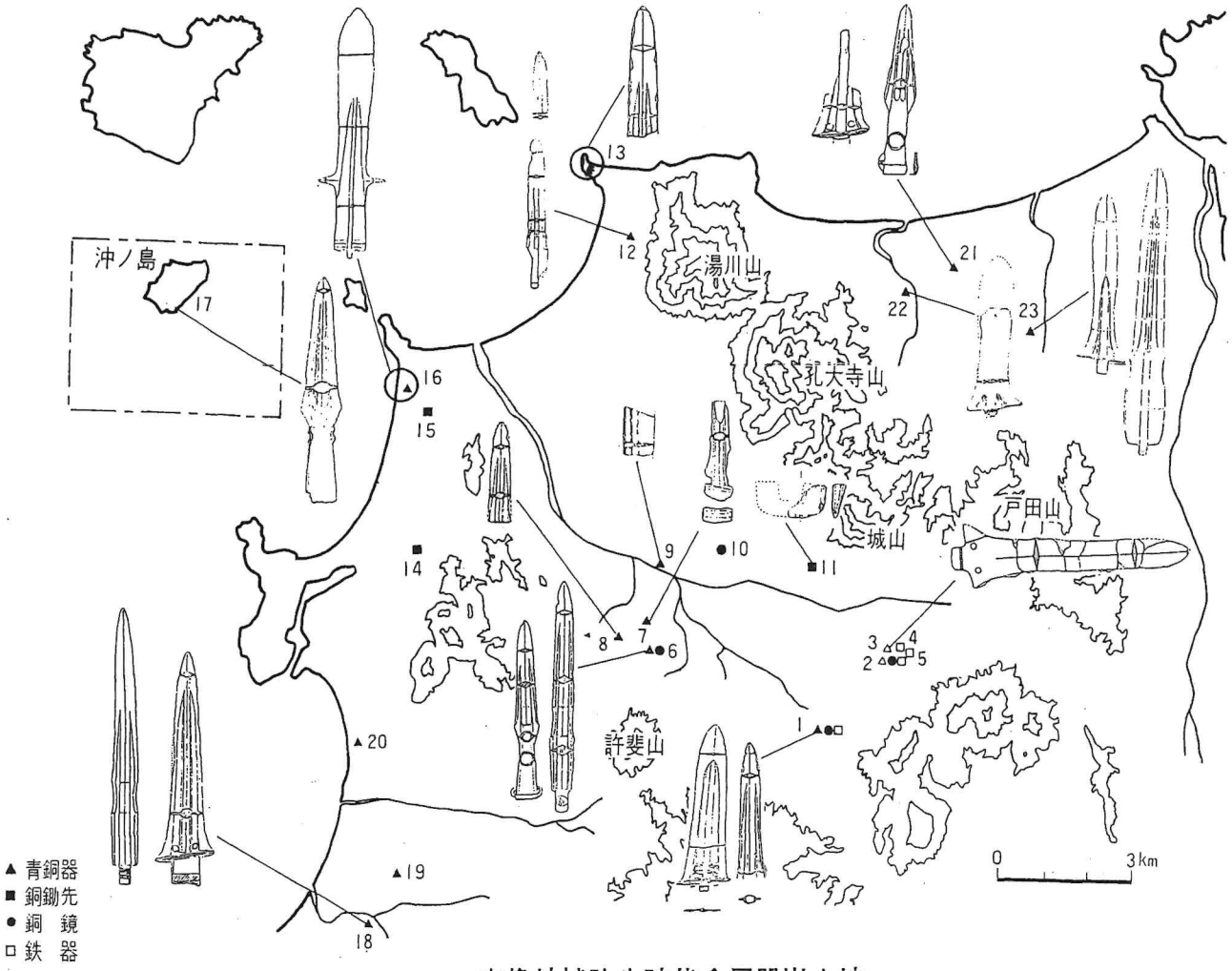


邪馬台国時代の北部九州の「クニグニ」

石野博信 編，2012『邪馬台国とは何か　吉野ヶ里遺跡と纒向遺跡』新泉社

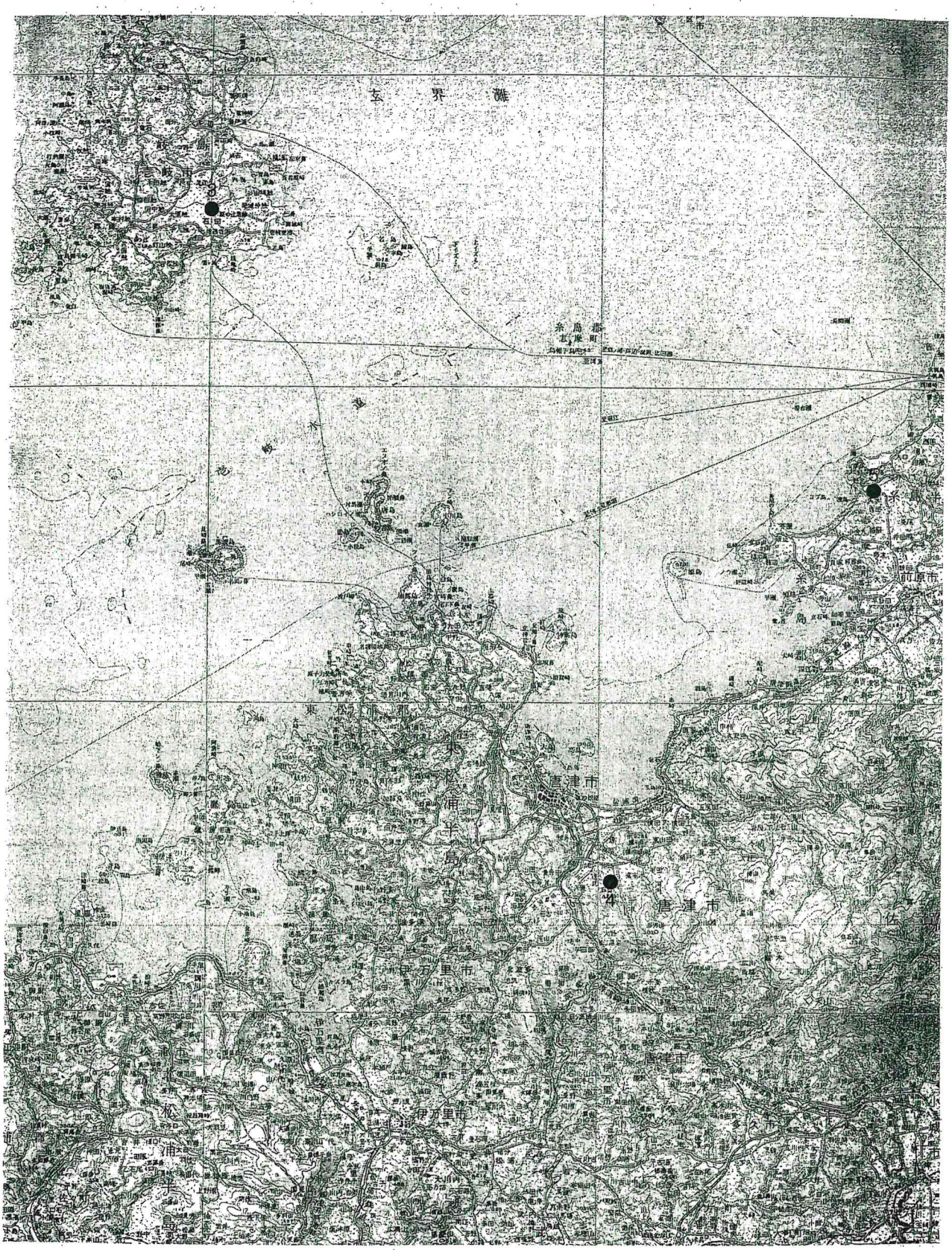


宗像地域弥生時代遺跡分布図



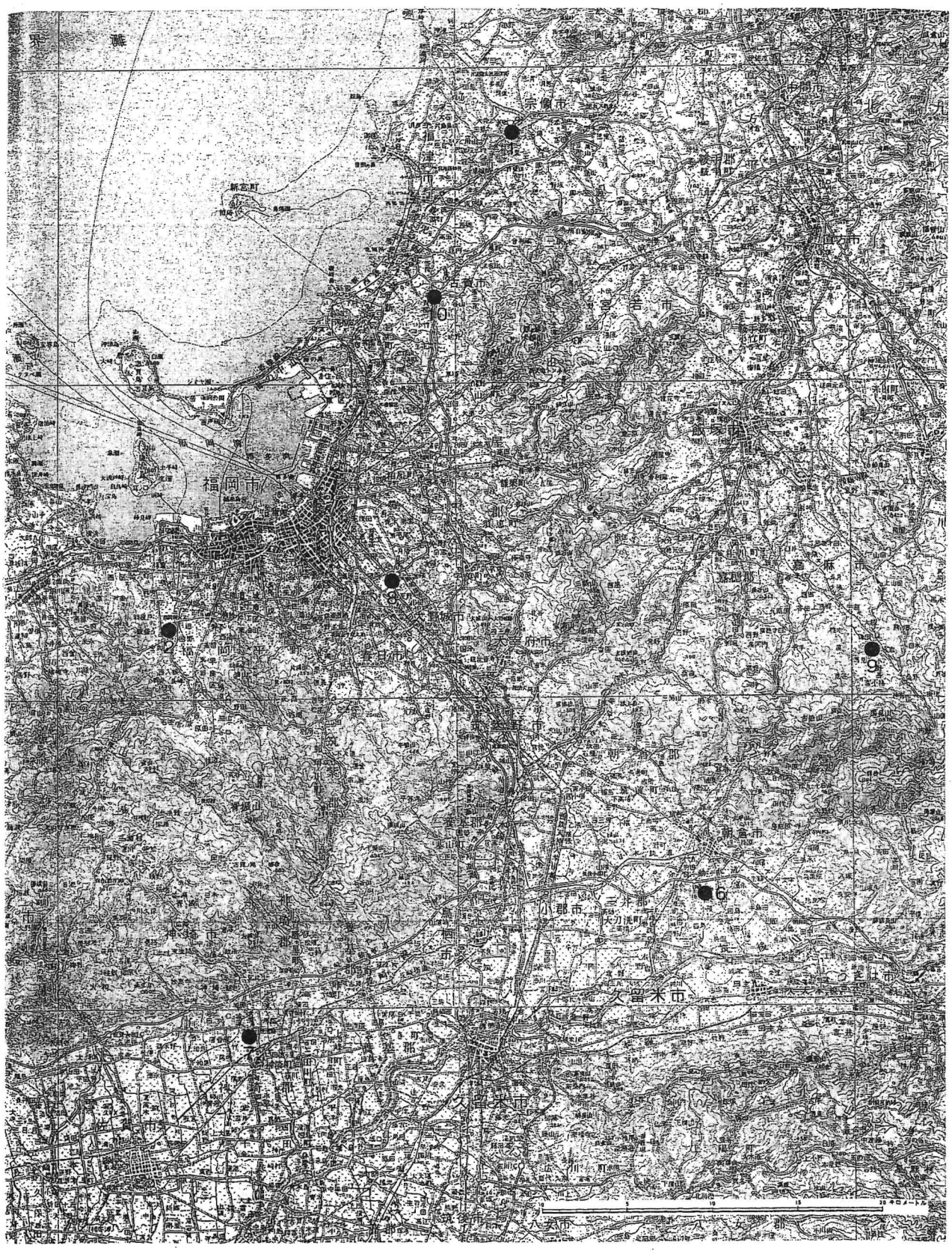
宗像地域弥生時代金属器出土地

宗像市史編纂委員会, 1997『宗像市史』通史編 第一巻 自然考古, 宗像市



北部九州各地の首長墓分布図

西谷　正，2010「首長墓の出現と王墓の形成過程」『九州歴史資料館　研究論集』35



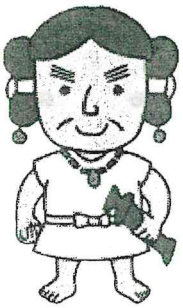
大庭 孝夫氏作成

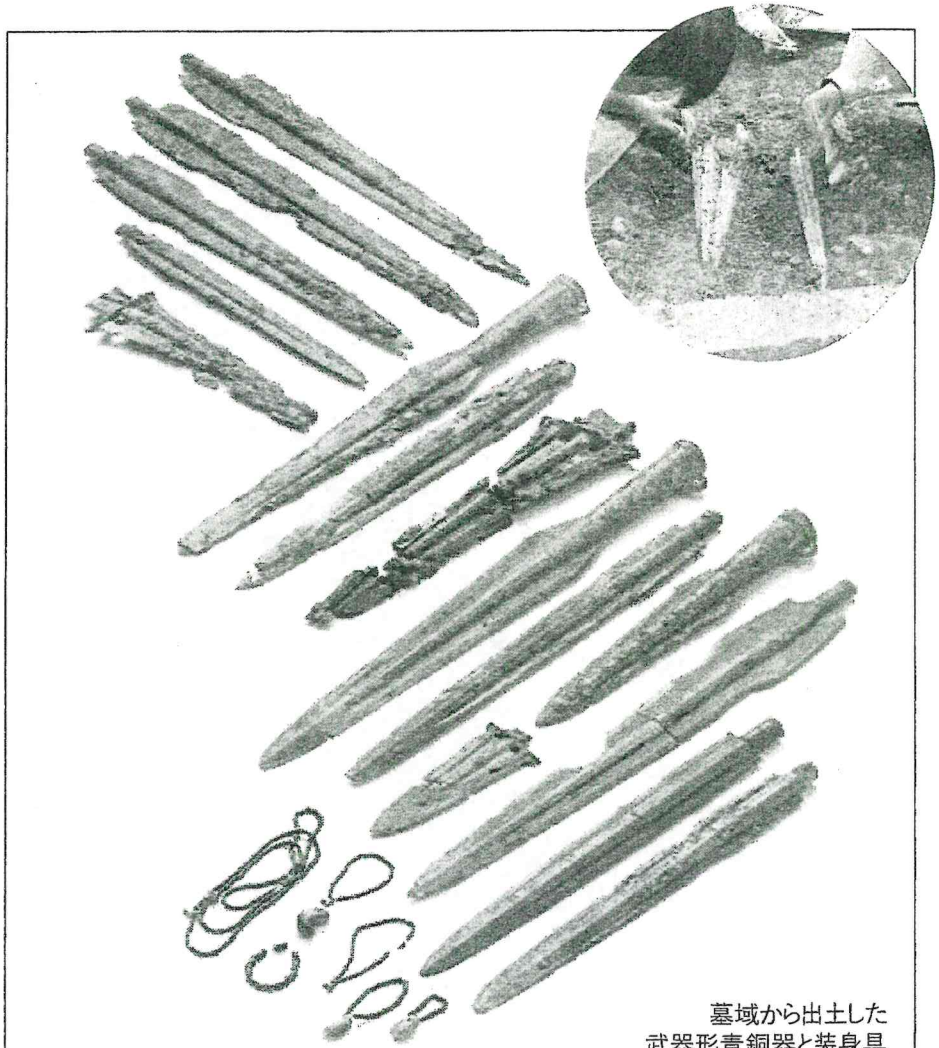
宗像遺産
埋蔵文化財編
④

国史跡

田熊石畑遺跡

たぐまいしはたけいせき





墓域から出土した
武器形青銅器と装身具

遺跡の所在地	福岡県宗像市田熊二丁目9番37外
指定年月日	平成22年2月22日
主な時代	弥生時代～古墳時代 （紀元前3世紀から紀元6世紀頃）

田熊石畑遺跡は市の中央西部、市内を流れる釣川中流の標高12m前後の台地上に位置する弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡です。なかでも弥生時代中期前半の有力者集団の墓域はわが国の弥生文化を考える上で大変重要なものです。遺跡は過去に宗像高等女学校（宗像高校の前身）、旧中央中学校などの学校用地として利用され、学校移転後ながらく、市街地の中に残された空き地となっていました。平成20年（2008）になり開発に伴って発掘調査が開始されましたが、弥生時代の墓域の発見により保存されることになりました。現在は、田熊石畑遺跡歴史公園（愛称：いせきんぐ宗像）として活用され、市民の憩いの場となっています。

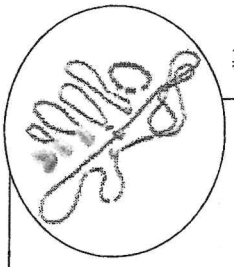
集落跡から出土した
土器や石器

発見のいきさつ

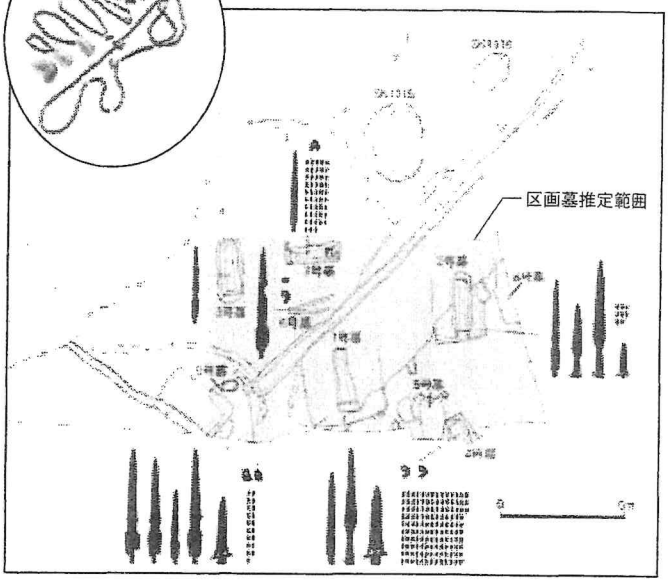
遺跡は、昭和8年（1933）に宗像高等女学校に赴任していた田中幸夫教諭によって運動場の拡張工事の際に発見され、学生らの参加によって調査が行われました。これが宗像地域で最初の考古学的な発掘調査です。

驚きの大発見

調査開始からほどなくして、鮮やかな緑青におおわれた銅戈が見つかりました。詳細な調査を行うと銅戈が見つかった場所は弥生時代の有力者の墓域で、弥生時代中期前半（紀元前2世紀頃）の刳抜式木棺墓であることが分かりました。その後も周辺の調査が進むにつれ、発見は続き、最終的に9基の墳墓を確認しました。調査では6基の墳墓を調査しましたが、調査したすべての墓から銅矛・銅剣・銅戈の武器形青銅器が出土し、最終的に15点が見つかりました。一つの墓域（区画墓）からの出土としては日本最多級です。



墓域から出土した装身具



弥生時代中期前半の墓域と周辺の遺構配置図

武器形青銅器とは

もとは弥生時代前期末頃に朝鮮半島から伝わった青銅製の武器で、銅剣・銅矛・銅戈の3種があります。有力者の所有物とされ、墳墓から大量に出土することはまれです。

見直される宗像の弥生文化

この遺跡の発見によって糸島平野の伊都国や福岡平野の奴国、松浦地域の末羅国など『魏志倭人伝』にみえる弥生文化先進地の東辺とみられていた宗像地域に、弥生時代中期前半の段階で吉武高木遺跡（福岡市）や宇木汲田遺跡（唐津市）などとほぼ同格の有力者集団が存在していたことがわかりました。中国の歴史書『漢書』地理志にみえる弥生時代中期頃の倭（日本）にあったとされる百余りの国々「百余国」のひとつに考えることも可能です。

古墳時代の倉庫群と東郷高塚古墳（左上の森）

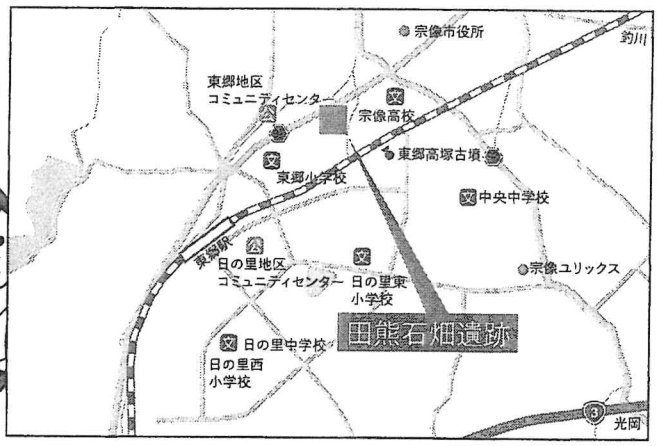
有力集団ムナカタ族のルーツ!?

また、調査では整然と建ち並ぶ古墳時代（6世紀頃）の倉庫群も見つかっており、その規模から在地豪族とのかかわりをうかがうことができます。近隣には東郷高塚古墳（4世紀後半）やスベットウ古墳（6世紀中頃）といった前方後円墳がつくられていることから、田熊・東郷地域は古墳時代になっても重要なエリアであったといえます。

田熊石畑遺跡は、このような有力集団を育てるゆりかごであり、古墳時代にはヤマト王権と手を結び、大海原を舞台に活躍したムナカタ族たちの出発点となったのではないでしょうか。

むなかた電子博物館　検索

http://d-munahaku.com/index.jsp



お問い合わせ

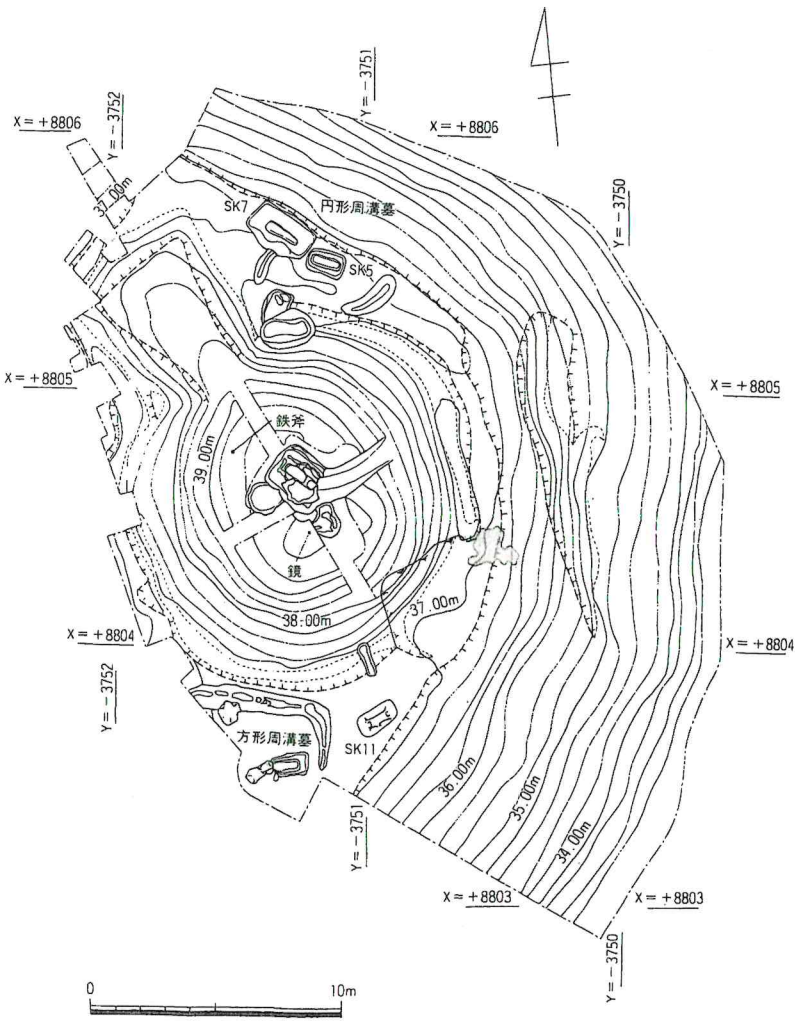
海の道むなかた館　〒811-3504　福岡県宗像市深田588　TEL0940-62-2600FAX0940-62-2601
開館時間：9:00～18:00　休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）

http://searoad.city.munakata.lg.jp/

―宗像郡域における古墳の出現―

上述したとおり、『魏志』倭人伝に登場する国は、古墳時代にはヤマト王権によって縣という地域単位として編成される。宗像郡域の東隣は遠賀郡であるが、そこには岡縣が存在した。このことは、『日本書紀』仲哀天皇八年春正月の条に見える筑紫行幸に際し、岡縣主の祖・熊鰐が登場することから推測できる。岡縣の設置を契機として、縣主墓と推定される島津丸山古墳が[註24]築かれたと考えられる。この古墳は遠賀川河口域左岸の丘陵地に築かれ、全長五七mを測るが、未発掘である。墳形から見て、出現期の前方後円墳と[註25]考えられる。

一方、宗像郡域では、島津丸山古墳とほぼ併行期の築造と考えられる古墳に、釣川上流域左岸の丘陵地に立地する徳重本村二号墳が[註26]ある。この古墳は、全長が一八・七mと非常に小形であるが、墳形はきわめて初期的である（第7図）。墳丘は、地山整形と盛土によって築成され、後円部高一・一m、前方部高〇・四mを測る。埋葬施設は、後円部の頂上中央部に設けられた木蓋土壙墓である。そこからは遺物は出土しなかったが、後円部黒色土層下から埋葬祭祀に伴う鉄斧二点と、後円部盛土中から獣形鏡一点、さらに墳丘の斜面や裾部から土師器が採集された。土師器は、布留式古段階に当たり、三世紀後半に位置づけられる。



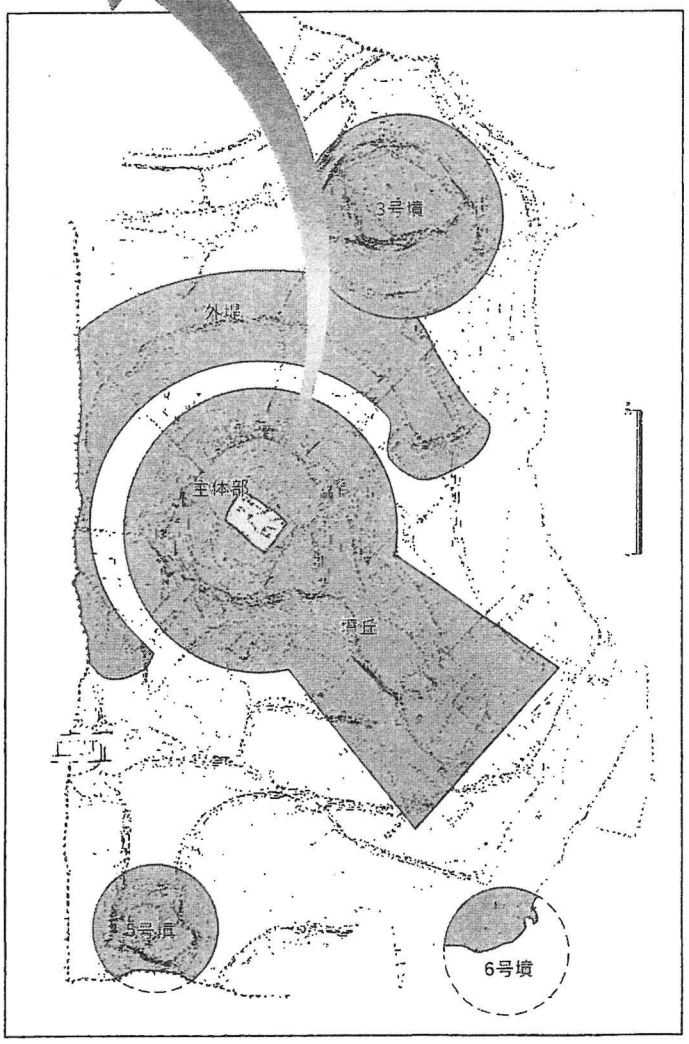
徳重本村２号墳遺構配置図
（宗像市教育委員会2002『宗像市文化財調査報告書』第52集より）

そこで、遠賀郡域における島津丸山古墳と岡縣（主）との関係から類推して、宗像郡域においても徳重本村二号墳に対応する「胸形」縣（主）の想定が可能ではなかろうか。もっといえば、倭人伝の時代の北部九州における国々の想定[註27]（第8図）に照らして、宗像郡域に「胸形」国とも呼ぶべき、一つの国の存在の可能性を主張したいのである。

東郷高塚古墳

とうごうたかつかこふん

主体部の粘土槨



墳丘復元図

所在地 福岡県宗像市日の里3丁目4-17
(日の里12号公園内)

時代 古墳時代前期(4世紀後半・約1650年前)

墳形 前方後円墳
(全長64.4m、後円部直径38.9m、後円部7.6m、括れ部幅22m、前方部高さ5.3m)

東郷高塚古墳は、市南部の許斐山(このみやま)から北へと延びる標高30mほどの丘陵上に位置する古墳で、前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)という形をしています。外堤を除いた墳丘の全長は64.4mあり、宗像市内の古墳では最大のものです。後円部には、死者を埋葬した割竹形木棺(わりたけがたもっかん)(大きな丸太をタテ半分に割り、中をくりぬいて棺としたもの)を粘土でくるんだ粘土槨(ねんどかく)と呼ばれる施設があります。この古墳には大きな古墳にしか見られない外堤(がいてい)とよばれる半円形の土塁(どるい)(幅約12m)を後円部の周りに巡らしており、沖ノ島祭祀がはじまるころの有力者の墳墓として注目されます。

古墳の保存

現在この古墳は、日の里団地が誕生する前の原風景ともいえる雑木林のなかに3基の円墳と共に残されています。昭和41年から始まった日の里団地の開発では、かろうじて古墳を保存することができました。当時は今のように文化財保護行政の体制が整っておらず、開発はやむを得ない状況でしたが、当関係者の努力と文化財への思いが実った結果、日の里12号公園内に残されることになりました。

勾玉
管玉

発掘調査

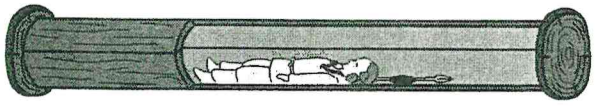
宗像市教育委員会では昭和61年度から3年間、内部主体や墳丘の形を正確に知るための発掘調査を行いました。主体部は残念ながら中世に大きく盗掘(とうくつ)され、期待された銅鏡(どうきょう)などの副葬品(ふくそうひん)は見つかりませんでした。

ところが、盗掘された穴にたまっていた土砂をふるいにかけてみると、青緑色に輝(かがや)くヒスイ製勾玉(まがたま)など、盗掘の手をまぬがれた遺物が見つかりました。また、遺体のおさめられた木棺はすでに腐敗していましたが、その痕跡(こんせき)から長さを復元すると、5.4mありました。これは北部九州最大級のもので、ここに眠る人物は玄界灘沿岸部の有力豪族(ごうぞく)のひとりであったと考えられます。

古墳のすそに立てられていた壺形埴輪

沖ノ島祭祀遺跡と東郷高塚古墳

神湊(こうのみなと)から約60km沖合に位置する、玄界灘に浮かぶ絶海の孤島「沖ノ島」は、銅鏡や金製指輪(きんせいゆびわ)など豪華な品々が発見された祭祀遺跡(さいしいせき)です。約8万点におよぶ奉献品(ほうけんひん)はすべて国宝に指定されています。4世紀後半から9世紀末にかけ、ヤマト王権が朝鮮半島への航海の安全を祈願し、大規模なマツリを行った遺跡と考えられています。この国家的祭祀には、大陸への航海を得意とした宗像の豪族が深く関わっていました。古墳の規模や主体部の構造からも東郷高塚古墳に眠る人物は、沖ノ島祭祀の開始期にこの地域で活躍した有力者(首長(しゅちょう))であったと考えられます。


割竹形木棺の復元図

むなかた電子博物館 検索
http://d-munahaku.com/index.jsp

お問い合わせ
海の道むなかた館 〒811-3504 福岡県宗像市深田588 TEL0940-62-2600FAX0940-62-2601
開館時間:9:00～18:00 休館日:月曜日 (祝日の場合は翌平日)

http://searoad.city.munakata.lg.jp/

◉三角縁四神文帯二神二獣鏡

中国・魏～西晋時代　径二二・二cm　十八号遺跡出土　宗像大社

公益財団法人　出光美術館，2014『宗像大社国宝展
神の島・沖ノ島と大社の神宝』（図録）